

## 育児における父親の理解と実践

後藤ヨシ子\* 北達 勝久\*\*

(平成14年3月15日受理)

## Understanding and Practice of Fathers in Child Care

Yoshiko GOTO\*, Katsuhisa KITATSUJI\*\*

(Received March 15, 2002)

### はじめに

核家族世帯において祖父母からの援助や育児知識や技術の伝承もなく、また近所や友人などとの付き合いが減るなど、母親にとって孤独な子育ては辛く、育児不安感はつものばかり…、特に初めての子育てにおいては、発熱、下痢、けが、母乳を飲まない、夜泣きをするなど、育児の心配や悩みは尽きなく、育児書数冊を抱えて、試行錯誤の育児になる。家族の中に生活を支える大人は二人だけである。母親ともう一人の大人、父親の育児への理解と育児参加の必要性は当たり前のことをあらためて実感する。そしてまた父子関係の形成は一朝一夕にできるものではないことも承知のことである。父親のライフスタイル、男性の生き方にも意識や行動面においての変化が一層もとめられてきている。

今回は核家族世帯における父親の育児への理解と実践について、その実情と課題を明確にする。

### 研究方法

対象は長崎市および近隣の幼稚園・保育園に通園する乳幼児をもつ保護者（父母715組）である（表1）。核家族世帯は83.7%。祖父母同居は16.3%。父方祖父母と母方祖父母同居の割合はほぼ6対4で父方の祖父母同居が多かった。世帯の子ども数は、2人が最も多く59.2%、次いで3人（23.2%）、1人（15.8%）の順であり、4人以上はわずか1.8%であった。子どもの出生順位は、第1子が51.1%と半数を占め、第2子が34.1%、第3子以降が11.0%であった。父親の就業状況は、常勤85.7%、自営業9.1%を占め、母親はパートタイム15.4%、常勤は少なく1割程度、専業主婦が約7割を占めていた。

調査内容は父親、母親双方に育児ストレス、子育てに対する考え方、子育て満足度、父親の理解と役割意識、社会・行政に望む内容等について、質問紙法による調査を実施した。調査実施時期は平成12年7月から9月である。

---

\*長崎大学教育学部家政教育講座

\*\*長崎県立上対馬高等学校

表1 対象

		人数 (%)
子どもの数	1人	113(15.8)
	2人	423(59.2)
	3人	166(23.2)
	4人以上	13( 1.8)
出生順位	第1子	365(51.1)
	第2子	244(34.1)
	第3子	79(11.0)
	無記入	27( 3.8)
世帯の形態	核家族	599(83.7)
	拡大家族	116(16.3)
母親の就業	常勤	66( 9.2)
	パートタイム	110(15.4)
	育児休暇中	9( 1.2)
	自営業	22( 3.1)
	専業主婦	489(68.4)
	無記入	19( 2.7)
父親の就業	常勤	613(85.7)
	自営業	65( 9.1)
	パートタイム	1( 0.1)
	無記入	36( 5.1)

## 研究結果

1) 育児のストレスの有無では、母親の約4人に1人(23.8%)、父親では約19人に1人(5.5%)が常にストレスを感じており、育児の負担は母親により強くかかっていることが分かった。その母親の7割は「子どもをどこかに預けてのんびりしたい」等、リフレッシュの機会をもちたいと望んでおり、地域の中で安心して預けられる一時預かりの施設や情報を望んでいた。また相談相手としても世代の近い友達を望んでいることが「いつも、時々」を加えて父親の40.8%、母親の60.2%にみられた。

ストレスの要因としては①子どもの性別による差異はみられなかった。②原因は、父親、母親共に第1位に「子どもがぐずる時」をあげていた。次いで父親は「身体的な疲れ」、「時間がない」「精神的な疲れ」をあげている。母親は「時間がない」「身体的疲れ」「家事に追われて」が原因の上位となっていた。特に父親と母親との相違の大きい項目は「家事に追われて」であり、「育児に加え家事も母親が担っている」ことが推察された。③仕事をもつ母親ではさらに「仕事と育児の両立」がストレス原因に加わっている。④祖父母との同居または近隣に住む専業主婦にはストレスを「常を感じる」は58.3%とかなり高く、一方仕事をもつ母親では7.1%と低い割合であった。祖父母との同居は共働きの母親にとっては、大きな支援となっていると考えられる。

2) 「自分は親として適していないのではないか」と父親の約3割、母親の約5割が「いつも・時々思う」と回答している。父親よりも母親にその割合が高いことは、子どもと接する時間の長さ・実践の程度との関連が考えられよう。子育てにおいて親として適していないのではないかと感じつつ日々子どもと向き合っている親への心理的援助、周囲

のサポートの必要性は早急に解決を迫られている課題であるといえよう（表2）。

- 3) 「子育てから学んだことはたくさんある」（父親53.6%，母親81.6%）, 「子どもを通して、友達や近所の付き合いが広がっている」（父親23.1%，母親63.5%）, 「子育てをしながら親自身も成長している」（父親46.0%，母親60.0%）, 等の子育てを通してのプラス面に対する回答は、父親よりも母親の方が圧倒的にその割合は高かった。

他方「子どもを喜ばせたり楽しませたりすることが得意」（父親31.1%，母親20.8%）, 「子どもと一緒にいることが好きだ」（父親58.8%，母親43.6%）, 「子どもと遊ぶ時は、自分も一緒になって楽しんでいる」（父親33.7%，母親22.4%）ことは、父親の方が母親よりも高い割合を示し、また「現代では子どもは親の背中をみて育つというだけでなく、直接子どもと関わる必要がある」と、父親の7割は育児に直接向きあうことが必要だという認識をもっていることが示されていた（表2, 3）。

表2 育児に関する内容(1)

項目		いつも思う 又は 常に	時々思う 又は 時々	少し思う 又は たまに	全然思わない 又は ない
育児のストレス有無	父 母	34( 5.5) 166(23.8)	116(18.6) 252(36.2)	220(35.4) 218(31.2)	252(40.5) 61( 8.8)
たまには子どもを預けて のんびりしたい	父 母	99(15.5) 236(34.1)	243(38.0) 294(42.5)	186(29.1) 131(19.0)	111(17.4) 31( 4.5)
祖父母の同居または近隣 に住むストレス比較	主婦 仕事	63(58.3) 4( 7.1)	36(33.3) 46(82.1)	9( 8.3) 6(10.7)	0( 0.0) 0( 0.0)
相談できる友達が欲しい	父 母	45( 7.0) 167(24.3)	216(33.8) 247(35.9)	248(38.8) 195(28.3)	131(20.5) 78(11.3)
親として適していないの ではないかと感じている	父 母	25( 3.9) 66( 9.6)	164(25.7) 252(36.5)	237(37.1) 257(37.2)	212(33.2) 115(16.7)
子育てをしながら親自身 も成長している	父 母	295(46.0) 415(60.0)	251(39.2) 223(32.4)	87(13.6) 45( 6.5)	8( 1.2) 8( 1.1)
子どもと一緒にいること が好きだ	父 母	376(58.8) 301(43.6)	217(33.9) 335(48.6)	44( 6.9) 52( 7.5)	3( 0.5) 2( 0.3)
一緒に喜んだり悲しんだり という心の共感ができる	父 母	275(43.0) 367(53.2)	295(46.2) 282(40.9)	61( 9.5) 37( 5.4)	8( 1.3) 4( 0.6)
育児は楽しい	父 母	155(24.4) 180(26.1)	359(56.5) 425(61.6)	110(17.3) 80(11.6)	11( 1.7) 5( 0.7)
育児をすることはすばら しい	父 母	550(85.8) 575(83.1)	86(13.4) 113(16.3)	4( 0.6) 4( 0.6)	1( 0.2) 0( 0.0)
親になって本当によかつ た	父 母	484(75.5) 522(75.4)	133(20.7) 143(20.7)	19( 3.0) 25( 3.6)	5( 0.8) 2( 0.3)

- 4) 子どもの理解において「一緒に喜んだり悲しんだりという心の共感」は「いつも・大体できる」と9割の父親, 母親は答えている。一方「子どもの好きなもの, 興味のあるものはよく知っている」は母親(62.6%)の方が父親(33.9%)よりも知っていると回答していた。

- 5) 父親の育児参加は、父親と母親の育児負担割合でみると、「父親の2割」に対し「母親の8割」負担というケースが最も多いが、父親の3～5割の参加も3割は見られた。

しかし未だ父親の1割負担も3割いることも事実である。

他方家事負担では、母親は3時間以上が6割を占めるのに対し、父親は15分以下が6割を占め、その内の3割は「家事はしない」であった。家事負担は未だ母親が大きく担っている。しかし「子どもが出生してから、父親の家事参加が増えた」と父親の52.1%、母親の52.8%が認めている。男女共同参画社会が幕を開けた今、父親の家事参加は今後もっと進行していくことが望まれる。

- 6) 現状の育児に対する満足は父親(17.2%)、母親(18.2%)共に2割も満たない。「育児は楽しい」は父親24.4%、母親26.1%と2割強であるが、3割にも満たない。一方「育児をすることはすばらしい」は父親(85.8%)、母親(83.1%)共に8割強を示し、そして「親になって本当によかった」も父親(75.5%)、母親(75.4%)共に7割強を示している。しかし「子どもと接する時間は十分足りている」と思っている父親はわずか8.1%にすぎず、母親も35.9%と、接する時間の十分でないことを示している。
- 7) 「職場や社会は育児に理解がある」と思っている父親は40.1%、母親では29.8%であり半数にも満たない。まだまだ職場や社会の子育てに対する理解は不十分な現状であることを示しているといえよう(表3)。

表3 育児に関する内容(2)

項 目		当てはまる	大体 当てはまる	あまり当て はまらない	全然当ては まらない
子どもは親の背中をみて育つというだけでなく直接子どもと関わる	父	174(27.3)	264(41.4)	154(24.1)	46( 7.2)
	母	257(37.3)	298(43.3)	115(16.7)	19( 2.8)
子育てから学んだことはたくさんある	父	42(53.6)	248(38.9)	41( 6.4)	7( 1.1)
	母	563(81.6)	118(17.1)	8( 1.2)	1( 0.1)
子どもを通して友達や近所のつきあいが広がっている	父	143(23.1)	215(33.8)	210(33.0)	64(10.1)
	母	438(63.5)	179(25.9)	69(10.0)	4( 0.6)
子どもと遊ぶ時は自分も一緒に楽しんでいる	父	216(33.7)	312(48.7)	107(16.7)	6( 0.9)
	母	154(22.4)	402(58.3)	118(17.1)	15( 2.2)
子どもの好きなものの興味のあるものはよく知っている	父	217(33.9)	304(47.4)	111(17.3)	9( 1.4)
	母	432(62.6)	237(34.4)	18( 2.6)	3( 0.4)
子どもを喜ばせたり楽しませたりすることが得意	父	199(31.1)	301(47.1)	126(19.7)	13( 2.0)
	母	143(20.8)	374(54.4)	156(22.7)	15( 2.2)
現状の育児に満足している	父	110(17.2)	292(45.7)	190(29.7)	47( 7.4)
	母	126(18.2)	370(53.6)	168(24.3)	27( 3.9)
子どもと接する時間は十分足りている	父	52( 8.1)	178(27.9)	295(46.2)	114(17.8)
	母	248(35.9)	266(38.5)	160(23.2)	17( 2.5)
子どもが出生してから父親の家事参加が増えた	父	114(17.9)	218(34.2)	204(32.0)	102(16.0)
	母	131(19.1)	231(33.7)	207(30.2)	116(16.9)
職場や社会は育児に理解がある	父	61( 9.6)	194(30.5)	246(38.7)	135(21.2)
	母	41( 6.0)	162(23.8)	326(47.8)	153(22.4)
仕事よりも子育てを中心に生活を考えている	父	52( 8.1)	170(26.5)	314(48.9)	106(16.5)
	母	383(55.7)	213(31.0)	76(11.0)	16( 2.3)
休日は自分の趣味や楽しみよりも子どもと遊ぶ時間を優先している	父	164(25.7)	271(42.5)	159(24.9)	44( 6.9)
	母	295(42.7)	309(44.7)	77(11.1)	10( 1.5)

## おわりに

現在「父親の育児参加」が声高にもとめられている。また「男女共同参画」という声に、どのように父親は理解し応えようとしているのだろうか。核家族世帯においては、母親以外の大人は父親だけである。育児の参加は、育児を楽しもうとする姿勢をもち、そして直接子どもと関わることの中から、子どもの理解が進み、子育ての喜び・すばらしさ、他方大変さも実感することになる。親子間の心の絆・信頼関係はそこから生まれ、子どもの安定した情緒と豊かな心の発達にとって最も基本的な親の役割と考えられる。

今日家族や地域の伝統的な子育て機能の低下の中、新しい父親像の模索の時期としての現状である。今回の調査において、父親の認識やかかわりにおいては、両親の役割の柔軟な互換が徐々に進行しているといえる内容や行動もみられた。しかしまだまだ子育てにおける理解や実践において、母親（55.7%）にくらべ「仕事よりも、子育てを中心に生活を考えている」父親は8.1%と少なく、「休日は自分の趣味や楽しみよりも、子どもと遊ぶ時間を優先している」父親は25.7%、一方母親の42.7%に見るように、父親の理解や実践についての割合の低さがみられる。

父親としての在り方は、各家庭の事情に合わせた子育て・父母共同の価値観を構築することが必要であり、同時に職場や社会においてもさらなる子育て重視社会の構築が進行されること、他方家庭科「保育領域」における子ども理解の深めも大事な課題として今日提示されていると考える。

## 文 献

- 1) 中央児童福祉審議会：今後の児童の健全育成に関する意見－子育て重視社会の構築を目指して－小児保健研究 57(5)719－723, 1998
- 2) 菅原ますみ：父親に何が出来るか－誕生から児童期まで－ 児童心理, 49(18), 62－68, 1995
- 3) 樋田大二郎：平成の父親たち 児童心理, 49(18), 78－86, 1995